

「太陽光発電ロードマップ (PV2030+)」公開 ご説明資料

平成21年6月8日

NEDO 新エネルギー技術開発部

福田 秀樹

ロードマップPV2030見直しのポイント

PV2030 2004年6月

技術開発目標：
グリッドパリティの提案
2010年：23円/kWh
2020年：14円/kWh
2030年：7円/kWh

技術開発への取組：
・NEDOの取組
2020, 2030年に向けた技術開発

環境の変化

・各国の技術開発・導入普及策の策定

米国、欧州などで相次いでロードマップの策定、

・地球温暖化問題への対応がクローズアップ

・「低炭素社会づくり行動計画」の閣議決定。
・Cool Earth-エネルギー革新技術計画策定。

・PV市場の爆発的拡大

導入(市場)の中心は欧州に。
・年間導入量割合は50%から10%
・生産シェアは50%から20%に。

・技術開発の着実な進展

2020年2030年を目指す
未来技術開発
2050年を目指す革新技術開発の新規発足

PV2030+ 2009年6月

技術開発目標：

・グリッドパリティの考え方の維持
・目標値は変更しないが、量産化適用期間を想定して技術開発を前倒しする。
・2050年目標を加える

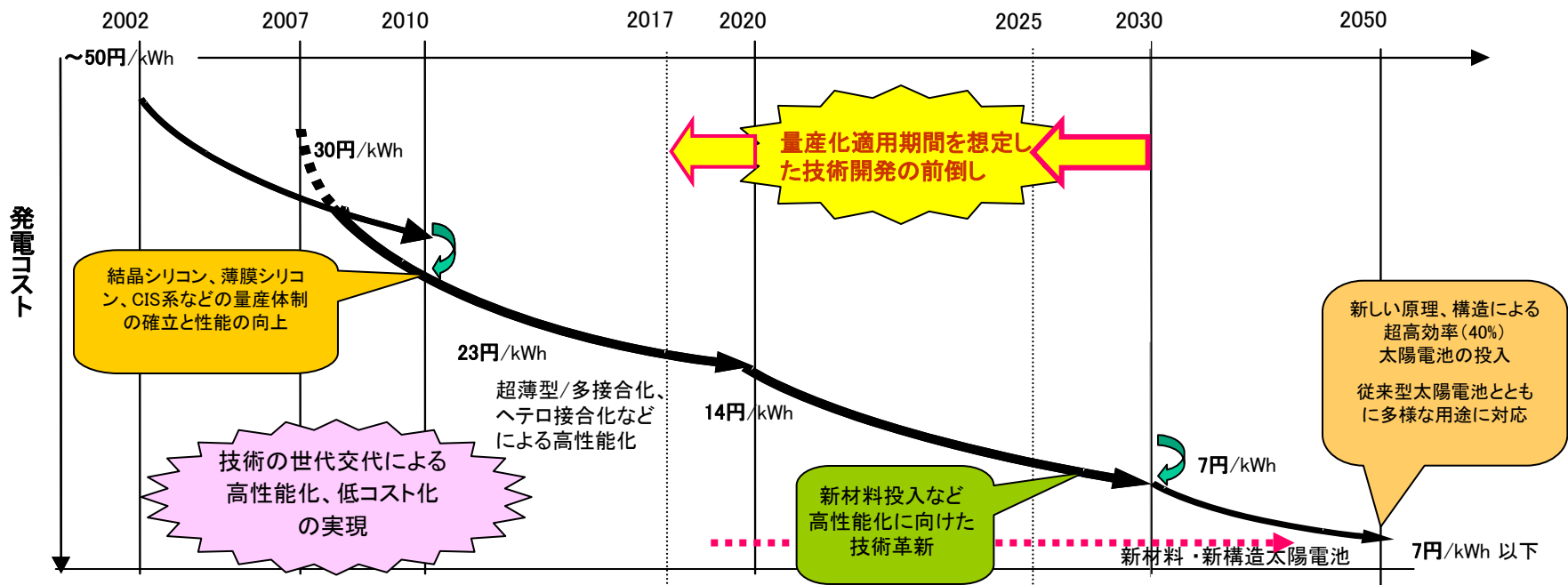
技術開発への取組：

・グローバルに対応する技術(集光型他)の導入、新概念(量子ドット他)の導入等メリハリある課題提言

PV普及への課題：

・将来の普及に向け
技術課題、システム関連課題、社会システム等、広い視野で抽出

● 低コスト化シナリオと太陽光発電の展開



実現時期(開発完了)	2010年以降	2020年(2017年)	2030年(2025年)	2050年
発電コスト	家庭用電力並 (23円/kWh)	業務用電力並 (14円/kWh)	事業用電力並み (7円/kWh)	汎用電源として利用 (7円/kWh以下)
モジュール変換効率 (研究レベル)	実用モジュール16% (研究セル20%)	実用モジュール20% (研究セル25%)	実用モジュール25% (研究セル30%)	超高効率モジュール40%
国内向生産量(GW/年)	0.5~1	2~3	6~12	25~35
(海外市場向け(GW/年))	~1	~3	30~35	~300
主な用途	戸建住宅、公共施設	住宅(戸建、集合) 公共施設、事務所など	住宅(戸建、集合)公共施設、 民生業務用、電気自動車な ど充電	民生用途全般 産業用、運輸用、 農業他、独立電源

当面の技術開発プロジェクト概要

実用化

